

発行所
平市八幡小路32
経済時事社
主幹 田原登
電話 4、775
毎週土曜日発行
定価3ヵ月 百円

めまぐるしい興亡のあと

縮のれんを風そよかせ覺敷の薄簾のような店前、前掛窓のふりにびくくりするほどである。これが戦前までの平市の從つて客足も繁くはない、恐ろしくこの盛衰は戦前戦後空前のことである。

商業繁榮線興亡のあとがうかがわれぬが当時代表的な繁榮を謳つた店前に對して歌われた俚謡のようなものが歌つた。筆輩たちが過學の途次これを歌つて

の経営方式と店舗の様式はからりと変って洋式に大都會的に変貌して来た。ここ数年來店舗の改造は顯著に行われ従来の旧式店舗は極めて少く近代化した店舗がずらりと並んで盛況を呈して来た。その変貌ぶりは五、六年前の平市しか知らぬ人が突然合すると大要左の如くで激しい遊んだことだ。その俚語？は

一町目の飯田さん(書店) 二町目の西村さん(藥屋) 三町目の佐野さん(陶器店) 四町目のし戸やさん(油や) 五町目の五左門さん(袋や)

(云々)もので一町目の飯田

石炭産業に金
融にわが石城は
中央並に他県の
ものゝ金もつけ
の場に当りられ
植民地化された
公にしたことがつてない。
日銀福島支店には各銀行など
から月報していて、日銀支店
は県下を、まづめにして毎月
公表するが、石城郡下の状況
は一切判らない。この封建的
秘密主義によつて石城はどん
な風に金が動いてゐるか云
うことはわからないのである
こんな馬鹿な話が公然と罷
り通つてゐるのである。金の
動きが判らずに産業計画を何
だやいが、預金の約四割が中

平市を始め五市にはそれぞれもあつたものではない。国家金融団を結成している。その保護のもとにこうした独善の云うことは、石城の人は中には奥内、並に地元の小さな金融機関も若干加入しているが、許されてよいものかどうかが、中央や他県の者の為には預金の状況や貸付の模様に経営が成り立っていることを云うことで、こんな馬鹿馬鹿しいことではない。この利子から上る

さんは書店であったが現在は映 治町吉田や、材木町柏や、新 にも七十才でくすしもとを三 ラデス、冷蔵庫、電気洗たく機 画館を経営しているほか他の四 町油屋、諸橋やなど、料理芸妓 等の販売店が繁昌し、写真文化 軒は今なお連綿として営業を続 やは、町目山形や（芸妓）二町 によると
 の興隆で写真材料やが伸び、ア

けている。
 当時洋服は特殊な人しに着ないので商店街の花形は何といつても眞屋屋であつた。そのなかでも堀や（紺屋町）仙台や（二町目）現在まるる（紅）などは、流として大勢の店員が前掛を始めてた（おつ）と（匠）客と目する（五町目）金。値貴。二町目金。お米が一升十五円、酒、合三マチャ、写真愛好者の激増は往年の写真やを庄迫し写真館は滅亡へと追いやられて来た。
 十二銭、お汁一杯二銭であつた。二十銭も持っているのと一丁目の飲田さんとうたわれた。飯田ラクさん（五九）は語る。
 書店をやめて劇場兼映画館を開業したのが大正の終り頃で

「五郎は、おしなまの結髪式の衣しよし、
大黒屋、三丁目目黒屋、腰柳茶
うは大底この店から買ったもの
だそうであるが、塩と呉服店は
やめて仕舞うていまその後には
町まづやなど巾をきかした方で
門圓服店は勤くなり、洋服生地
を売る衣料品やがぐんと押し出
す。」

磐水社が入っている、呉服店の興亡の激しかったところを見せて主なものには袖置町堀や、一町目仙台や、二町目かみや、中野や三町目かめだや、うろこや、三ツ町の経営者小野鶴松さん（市井、四町目うろこや、かめだや、銀役鞍勤務）妻とくさんは現在と化械による農機具や、テレビ、市で作った商工名鑑（三十二年）復興し始めて呉服やは再び活氣を呈している。また電化時代の通りである。

▽衣類一軒▽呉服三▽洋服洋服、生地販売二▽注文洋服五、六▽古着二

本県三十四年度地方交付税は県十二万四千円（市分五億九千四百とく）に市町村分は炭鉱界不況に
分五十八億九千二百七十万一千百九十六万八千円、町村分十七
円市町村分二十三億五千四百四十五万九千四百四十五万六千円）で
て前年度より五・四％のびてお
る鉱山税の収入減が加味され
米麦四三〇製めん一五〇米穀三
四〇時十ヶ廿三ア間七

利益は二分と見なせば年間一億四千万円となる。

もしも地元銀行があるとすればこの利益は地元銀行に入るワケで、そうした金によって大学の設立なども容易に出来るのではないか。

中小企業はなかなか貸して貰いないという事になっているようだ。

この不満について数年前面白い話を聞いた。或る材不商の主人が某大銀行支店に金を貸してくれと行った処断られ

り、これは全国平均の二%増の以上に当る。石城地方では内郷市の五千三百五十万七千円を筆頭に平市の五千九十九万九千円（前年度四千九百六十九万二千元）（な）合計二億七千四百四十一万八千元。市町村別の交付税次の通り。（単位千円）

目・耳・口 暑い日が続いているつえにわが石城は他所と違って石炭が安いので不景気だが、お米は五年続きの豊作疑

▽書籍文房具三

化粧品五▽雑貨、荒物六六▽石炭一九▽木炭薪炭二五▽石油八

▽肉類三六▽小籠物

銀行の設立は最近大蔵省がたのに憤慨し、地方からたく一県一行の方針らしいが、実際問題としてこれでは不十分のようだが、だから信組を拡大強化するとか専門的に研究し行はば他にいくつでも方法はあつてと考える。中央の有力銀行は何故か地方への小さな貸付を流すかといへば、中央へ

たのに憤慨し、地方からたくさん預金を集めていながら貸して呉れない様な銀行はいらないから東京に帰つてくれと駄々をこねたそうだが、これは端的に石城人の不満をぞうまけたものである。地元民の理解ある結果があるならば、地元の金を地元で利用とする。

▽平市五〇、九〇九▽常磐市一一、五九五▽磐城市四四、九八五▽内郷市五三、五〇七▽勿来市二五、四八二▽遠野町一六、八三八▽田人村一三、五〇一▽好間村一七、八四三▽三和村一六、五五三▽四倉町七、四二〇▽川前村六、一二八

いなしと云うので暑いながらもホツとした感じ。▽平夏まつりも二十日夜の花火大会で目出度く閉幕した。公会堂で開いた専門店会の「蔵ばらい」に次いで駅前大通りで開いた「でこ市」はごちも連日の大賑ひ、それでも例年より売上はよくなかつたといふはなし。▽金融植民地

預金をもつて行つて大きく貸
けるのも、地方で小さな貸付
るものも手続きの中間は同じで
ある。小さな貸付では能率が
あがらないのでつい中央に持
つて行く様になつて、地方の

こは不可能ではない。不名
譽な金融植民地化から一日も
早く脱却し石城の繁栄へ踏み
切る様に再び地元銀行設立を
提唱する次第である。

船溜を陳情

平市薄磯區長岡部貢吉氏ら代表
七名は十九日薄磯船溜の新設か
たを平市に陳情した。工費三百
万円の予定で漁港にしたい希望
ばかりに。

化のために中央や他県の銀行に
もつづけられるお金は毎年少くとも
一億四千万円の推定、恐らく
これ以上らしい。御殿のよつな
銀行員の住宅はあちこちに建て
られてゐる、不景気ほどで風と

暑中お見舞申し上げます

副議長
志賀季三郎

